



日本プライマリ・ケア連合学会  
中部ブロック支部 活動報告

発行人：伴 信太郎  
事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65  
名古屋大学大学院医学系研究科健康社会医学専攻総合診療  
医学内  
Tel. 052-744-2951 Fax. 052-744-2951  
E-mail: nobuban@med.nagoya-u.ac.jp

ニュースレター No.25(2019.3) 本号の編集担当者 宮崎 景

## 【支部情報】

1) 中部ブロックポータル発表会 13:00～16:30

2) キャリア café mini 10:00～12:00

2019年3月16日(土) 場所:名古屋大学医学部鶴友会館2階大会議室

## ●東海家庭医療ネットワーク

「第32回カンファレンス in 愛知」を開催しました！

当会のカンファレンスは会員持ち寄りの手弁当ワークショップを主軸として、実地臨床で役に立つ話題をもちこみ、家庭医療に興味のある方が参加しやすいカンファレンスを心がけて企画しております。

2019年2月23日(土)、名古屋大学医学部鶴舞キャンパスにて32回目となるカンファレンスを開催しました。医学部1年生から卒後19年目まで、幅広い年齢層の皆さんと和気藹々、楽しい会でした。その様子を報告いたします。(代表：田中久也)



### WS1 あなたも今日だけドクターコトー！？～診療所でいざという時の対応を考えよう～

講師：浜松医科大学地域家庭医療学講座 金子 惇 先生

大阪大学老年・腎臓内科学 横山 世理奈 先生

金子先生と同期という横山先生とともに、沖縄の離島での診療経験を紹介いただき、実際に体験した複数のケースについて「自分がそこで働く医師だったらどうするか」を考えるワークショップで、離島の暮らし、文化

が医療にも強く影響すること、特殊な状況で最善を尽くす医療の魅力と難しさを学びました。

島に一人だけの医師、限られた医療機器や材料で、重症患者の治療にいかに取り組むか、グループで相談しながら「私ならこうする」という結論を導きました。やはり制限の多い中で目の前の患者さんに最適な医療を提供するのは難しいものだと感じるとともに、離島ではない普段の診療でも似たような「迷いの場面」があるな、と共通点も感じました。全体で意見を共有し、同じケースでも決して方法は一つではない、いろいろなアイデアを知ることができました。

それにしても南国の写真は爽やかで、ほのぼのとしていいな～(笑)

### WS2 定期外来を圧倒的スマートに行う方法 リターンズ！

講師：三重大学医学部附属病院総合診療科 森 洋平 先生

津ファミリークリニック 原田 直樹 先生

2019年の冬季セミナーで募集開始後速やかに定員が埋まったという人気のワークショップを、少人数で受講できる贅沢な機会でした。今後「定期外来」が臨床研修で必須となることを踏まえ、その基本型を学ぼうと企画されたのですが、なかなか理論的かつ実践的で興味深いものでした。定期外来を準備、オープニング、ボディ、クロージングに構造化し、それぞれの場面で何に気を付けるとよいかを、とてもよく練られた3つのシナリオで、ロールプレイを通して学びました。

いつも複数の相談を持ち込む患者、本人よりも家族に健康上の心配をされている患者、急にショックな出来事に襲われ混乱する患者。どれも日常診療で出会う、「定期外来あるある」。多忙かつ時間制限のある外来診療で、こうした患者とのコミュニケーションをいかに行うと



「スマート」になるのか、グループで議論し、その成果をロールプレイで発表しました。外来を始める前の準備の重要性、患者の「言葉」を巧みに利用すること、複数の行動を一度にすると時間短縮になること、スマートな外来を心がけつつスマートではいられない問題も時にはあることといったTIPSをいただき、大満足のワークショップでした。

## ●愛知県

### 【報告】

1)「ACCEL 2019 冬」2019年1月12日(日) 14:00-17:30

場所：名古屋大学医学部 会議室1

ACCEL (Attractive Conference on Collaborative and Elaborative Learning for Senior Residents) は、名古屋大学総合診療科が主催するポートフォリオ (PF) の作成支援のミーティングです。年4回開催。今回は総勢18名の参加者でした。愛知県内より2名の外部の先生方にご参加いただきました。今回は当科の松久先生より『行動変容』のコアレクチャーをしていただきました。なじみのある漫画を題材にいただき、行動変容について興味深く知識を習得することができました。

### 【今後の予定】

2019年3月16日(土) 13:00-16:00 名古屋大学医学部 会議室1

詳細を知りたい方や参加をご希望される方は、名古屋大学総合診療科 HP <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/accel/> もご参照ください。コアレクチャーの概要も参照いただけます。

すべての家庭医療専門医プログラムの専攻医、指導医、多職種のオープン参加を歓迎します。またPC認定医の受験や更新、家庭医療専門医更新でPF作成が必要な方も是非ご参加ください。詳細は下記アドレスにお気軽にご連絡ください。



連絡先：名古屋大学医学部附属病院総合診療科（担当：安藤友一）

E-mail：u1ando@med.nagoya-u.ac.jp

Tel & Fax：052-744-2951

## ●岐阜県

### 【報告】

1) 第1回日本プライマリ・ケア連合学会岐阜県支部総会

日時：2019年1月12日（土）15:00～16:00

場所：岐阜大学医学部附属病院多目的ホール

内容：規約と役員の承認を経て、岐阜県支部が正式に発足しました。今後の運営や次期開催について協議しました。



2) 第1回岐阜県総合診療セミナー

日時：2019年1月12日（土）16:00～17:00

場所：岐阜大学医学部附属病院多目的ホール

内容：第1回岐阜県支部総会に引き続き、講演会を開催しました。

参加者：25名

特別講演 岐阜大学関節再建外科学先端医療講座 特任准教授 青木隆明先生、高齢者の骨と筋肉のための運動とリハビリ。



### 3) 第41回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス

日時：2019年2月8日（金）19:00～21:00

場所：長良川国際会議場国際会議室

参加者：研修医18名、その他医師32名、計50名

内容：①研修による症例検討会2題、②ミニレクチャー 岐阜県総合医療センター感染症内科 医長 鈴木純先生、感染症診療—ある日の症例—、③特別講演 岐阜県総合医療センター総合診療科 医長 岡田英之先生、脊椎関節炎と関節リウマチ～今注目の脊椎医関節炎を中心に～

#### 【今後の予定】

#### 1) 第42回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス

日時：2019年5月31日（金）19:00～21:00

場所：岐阜グランドホテル

#### 2) 第1回北西部FCGP (Family medicine, Community medicine, General medicine and Primary care) セミナー・第2回岐阜県総合診療セミナー

日時：2019年6月29日（土）14:00～17:00

場所：白鳥ふれあい創造館

## ●静岡県

### 【報告】

#### 第7回静岡プライマリ・ケアフォーラム報告

平成31年1月19日午後CSA貸会議室7-C(レイアップ御幸町ビル7階)にて、第7回静岡プライマリ・ケアフォーラム(平成30年度第2回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック静岡県支部地方会)が開催された。

一般演題(ポートフォリオ)として以下の3つの演題が発表され、それぞれ活発な質疑応答、意見交換が行われた。以下抄録抜粋。

#### ① 『診療所看護職の看護職歴と職業観との関連』

菊池慶子：浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座

【目的】実践経験年数が長いほど看護士の職業観は確立すると先行研究で明らかになっているが、診療所看護職に限定した見解は見られないことから、診療所看護職のキャリアと職業観との関連を明らかにする。

【方法】平成29年11月～平成30年2月にA市内にある162の診療所に勤務する看護職(看護師・准看護師・助産師)558名を対象に無記名の調査票を直接配布してアンケート調査を実施した。『看護師の職業的アイデンティティ尺度(PISN)』は、佐々木ら(2006)により開発された臨床経験5年以上の看護師を対象とした5段階リッカート尺度によ

る20項目の質問で構成されている。選択肢の『あてはまらない』(1点)～『あてはまる』(5点)の合計点(20～100点)を算出した。更に看護職歴として、臨床経験年数と現在勤務する診療所の勤務年数について尋ね、これらの年数を層化してPISN合計点の平均値を一元配置分散分析により検討した。統計解析には IBM SPSS Statistics 22 を使用し、 $p < 0.05$  を統計的有意とした。本研究は浜松医科大学の倫理委員会の承認を得ている。

【結果】有効回答数は317(有効回答率56.8%)で、看護職歴のうち臨床経験年数のPISN合計点の平均値は、『5～10年未満』63.9、『10～20年未満』69.5、『20～30年未満』71.6、『30～40年未満』76.6、『40年以上』77.7であり、ほとんどの年数間でも有意差が見られた。現在勤務する診療所の勤務年数のPISN合計点の平均値は、『1年未満』65.8、『1～3年未満』68.6、『3～5年未満』69.6、『5～10年未満』71.1、『10～20年未満』74.4、『20～30年未満』73.5、『30年以上』68.5であり、ほとんどの年数間では有意差は見られなかった。

### 『診療所看護職研修会』活動報告

【目的】地域包括ケアに関する知識を把握し、職場での看護実践を振り返りながら日常的に地域包括ケアシステムに関わっていることに気づき、他の看護職と意見交換して診療所看護職の役割について考える

【研修名】第1回 診療所看護職のための研修会～地域医療でイキイキとした看護を続けていくために

【開催日】平成30年11月18日(日) 10:00～12:00 【会場】浜松医科大学附属病院 外来棟1階 多目的ホール

【対象】浜松市内の診療所に勤務する看護職員または関心のある方

【内容】①講演『これからの地域医療で診療所看護職に期待している役割』

～地域医療に『かかりつけ看護』を生み出そう！～ 講師：医療法人社団 心 理事長 小野宏志 先生

②グループディスカッション テーマ：「診療所看護職として、『今』頑張っていること、困っていること」

### ② 心停止となった神経性やせ症に蛋白同化ホルモンを用いた集学的治療行っただけ一例

柳川洋一：順天堂大学医学部附属静岡病院 救急診療科

症例：54歳女性。主訴：意識障害。

現病歴：自宅で意識なく倒れているところを母親に発見された。救急隊接触時、心停止と判断され、胸骨圧迫と人工呼吸を実施した。ドクターヘリスタッフ接触時、深昏睡状態であり、低血糖であったため、輸液路確保後ブドウ糖投与がなされ、当院へ搬送された。

既往歴：神経性やせ症。

経過：来院時の所見から神経性やせ症、蘇生後脳症、クワシコル、タコツボ心筋症と判断した。強制的に栄養状態を改善するため、中心静脈輸液路確保と胃管挿入を行った。K、Mg 製剤を含む輸液、経管栄養を行った。また、胃管から蛋白同化ホルモンの投与を併用した。翌日には覚醒したため、ほとんど摂食しなかった。その後、肺水腫、肺炎を合併し、呼吸状態が悪化したため、APRV を経て気管挿管、人工呼吸器管理、気管切開を施行した。集中治療後、食事も自ら全量摂取することが可能となり、体重も上昇したため、蛋白同化ホルモンと漸減中止とした。筋力アップと精神的なサポートを行うため、第91病日に転院となり、その後、後遺症なく社会復帰した。

結語：本症例は神経性やせ症で多彩な合併症を併発したが、蛋白同化ホルモンの投与を含めた集学的な治療により社会復帰した。

### ③週1回デュラグリチド皮下注使用により自己注射ができなくとも糖尿病治療が維持できた5例

三輪一太：三輪医院

糖尿病の悪化により、内服だけではコントロールができない患者がいる。従来であればインスリン注射導入を余議なくされたが、体が不自由、1人暮らし、高齢などの理由で自宅では毎日の注射ができない患者がいる。

週1回投与のGLP-1受容体作動薬デュラグリチド皮下注が発売され約3年。簡単なデバイスで、低血糖を起こしにくく、腎機能障害にも使いやすいユニークな製剤である。当院でも9例のデュラグリチド症例を経験した。デュラグリチド皮下注の長所である①週に1回投与、②低血糖を起こしにくい③腎障害にも使用可能というところを利用し自己注射ができなくてもデイサービス、訪問看護などと協力しそこで注射することで糖尿病治療が維持できた症例を検討

する。

一般演題（ポートフォリオ）の後は、尾藤誠司先生（国立病院機構東京医療センター 臨床研修科医長）を講師にお招きして、①ポートフォリオライブ指導、②講演「“illness”の最前線と最先端」を行った。

① ポートフォリオライブ指導では、ふじのくに家庭医後期研修プログラム原田高根先生の「家族志向型ケア」、「プロフェッショナリズム」の事例と、静岡家庭医養成後期研修プログラム松永拓先生の「プロフェッショナリズム」の事例についてホワイトボードを用い指導が行われた。

家族志向型ケアでは、家族カンファレンスによる患者自身の意思が確認できない症例に対する意思決定支援を評価する一方、領域変更の提案や本人の肩に乗っている「家族の木」のご指摘があった。

プロフェッショナリズムではインフルエンザ検査に対する“もやもや”、職員への診察に対する“もやもや”に対する考察を評価され、プロフェッショナリズムの概説を短時間であるがしていただいた。

どちらも学会のルーブリックに沿いながらも、先生自身の考えも交え、有意義で楽しい時間になった。

② 講演「“illness”の最前線と最先端」では尾藤先生の「新作」とされる講演で、その後の質疑応答を含めて、「病気とは、病とは」、「これからの医療のパラダイム」を示され、解決困難な問題からは逃げられないプライマリ・ケア医、総合診療医のあり方として「患者さんとの共存」、「セルフケア支援」などが考察された。

最後の地方会総会、会員交流会では、中部ブロック大会含む地方会について、学会中央の話題、専門医制度の動きなど、情報提供と意見交換が行われた。

30名の参加者（医師23名、薬剤師2名、看護師・保健師3名、事務職1名、学生1名）で、懇親会には尾藤先生も加わり参加者10名の楽しい会となった。この場をお借りして、尾藤先生、口演をいただいた先生方、支部会役員、当院スタッフ、参加者の皆様に感謝申し上げます。

文責 北西史直



【今後の予定】

静岡県立総合病院から

### 第16回 慢性期医療を考える会

日時：平成31年3月8日(金) 19:00～

場所：もくせい会館(静岡市葵区)

一般演題 へき地診療への挑戦

演者：コミュニティーホスピタル甲賀病院 甲賀啓介先生

特別講演 糖尿病患者の生きるを支える

演者：東埼玉総合病院地域糖尿病センター 中野智紀先生

静岡家庭医養成プログラムから

### 第10回家庭医療学学生ワークショップ

明日から出来る！患者さんの生活習慣を変えるコツ！！

日時：平成31年3月9日(土) 14:00～16:30

場所：クリエイト浜松特別会議室

### 【お知らせ】

11月24日中部ブロック学術集会は静岡県が当番県です。場所は名古屋ですが、よろしくお願いします。

## ●富山県

### 【報告】

#### 1) 2018年12月15日 とやま NANTO-RENKEI 総合診療医養成プログラム ポートフォリオ発表会

講師：宮地由佳先生(京都大学医学部附属病院 緩和医療科/京都大学医学教育・国際化推進センター)

会場：富山市まちなか総合ケアセンター

専攻医のポートフォリオ発表をポスター形式・口頭発表形式の両方で行った。宮地先生に「教育ポートフォリオの基礎知識について」と題して、ポートフォリオ作成の実際・指導法につきご教授いただいた。富山県内だけでなく、新潟、石川からの参加者もあり、近隣の病院・プログラム同士の交流を深める機会となった。



#### 2) 2019年2月9日 VR認知症体験プロジェクト in 富山大学

VR(バーチャル・リアリティ)の技術を活用した認知症の疑似体験ができる勉強会が開催された。開発した株式会社シルバーウッドが2016年より体験会を始め、今回は医学部では2番目、初めて大学病院で開催された。参加者は認知症の中核症状を体験し認知症の理解を深め、VRを使った医学教育や看護教育を考えることができた。



### 【今後の予定】

- 1) 2019年4月3日 「Hawaii Medical Education Program (HMEP) ハワイ医学教育プログラム」講演会 (予定)  
講師：町淳二先生 (ハワイ大学医学部 外科教授) 会場：富山大学附属病院臨床講義室 1

## ●石川県

### 【報告】

第8回クリニカルラウンド テーマ：女性の貧血

講師：市立輪島病院 産婦人科 青山 航也先生

日時：平成30年12月6日(木) 19:00~20:00

場所：市立輪島病院 2階会議室 参加者：31名



### 【今後の予定】

診断戦略セミナー とらのこ☆外来@恵寿

講師：獨協医科大学 総合診療医学・総合診療科 教授 志水 太郎先生

日時：3月2日(土) 19:30~22:00 会場：恵寿総合病院 救急センター

3月3日(日) 8:30~11:30 会場：恵寿総合病院 Keiju Innovation Hub

内容：救急外来での指導、症例振り返り

## ●福井県

### 【報告】

介護予防だけじゃない！世代間交流や地元愛の醸成までを目指した公認町民体操「赤ふん坊や体操」誕生！



地域ヘルスプロモーションを専門とする家庭医療専門医がコアメンバーとなり、福井県高浜町長公認の町民体操「赤ふん坊や体操」が誕生しました。自治体オリジナルの介護予防体操を展開する動きは全国的に多く見受けられますが、介護予防体操はその対象は高齢者、その運営はヘルスケア提供者等に限定されてしまいます。「町民体操」を展開することで、対象は全町民、関わる主体はあらゆる分野の関係者となり、体操の直接的な健康への効果よりはむしろ、体操を介した交流、社会参加、地元意識の向上から、社会医学的に健康への効果が発揮されることを目指します。すでに町内保育所・小学校、老人クラブ、老人サロン、公民館講座、健康出前講座で使用いただき、マラソン大会で交流事業となるなどの成果も出ています。今後は社会疫学的調査でその効果について測定していく予定です。  
<https://www.facebook.com/akafunex/>



### 【今後の予定】

#### 1. 2019年度第1回 福井県家庭医療ポートフォリオ発表会

日時 2019年6月9日(日)

場所 福井大学医学部附属病院 白翁会ホール

特別講師 南郷栄秀(東京北医療センター 総合診療科 医長)

今回は特別講師に南郷栄秀先生にお越しいただき、EBMをテーマにご講演いただく予定です。

#### 2. 2019年度第2回 福井県家庭医療ポートフォリオ発表会

日時 2019年12月8日(日)

場所 福井大学医学部附属病院 白翁会ホール

特別講師 許 智栄(アベンティストメディカルセンター 家庭医療科)

今回は特別講師に米国家庭医療専門医、米国老年医学専門医である許智栄先生にお越しいただき、米国での家庭医療評価および、最新の老年医学についてご講演いただく予定です。ぜひ皆さんの参加をお待ちしております。

## 【報告】

### 1) 三重大学総合診療プログラム ポートフォリオ発表会

日時：2018年12月2日（日）9:00～12:00 会場：三重大学医学部

20名以上の専攻医、指導医、多職種が集い、専攻医のポートフォリオ作成支援のミーティングが行われました。ポートフォリオとしての体裁のみならず、普段の診療や学習に対するフィードバックを受けました。自施設の指導医とは違う視点での振り返りを受けることができ、新たな気づき、より深い学びにつながる機会になりました。



### 2) 第3回訪問薬剤に関する研修会

日時：2019年1月17日（木） 会場：一志病院 講師：洪 英在

24名の参加者を得て、レクチャー「バイタルサインの見方 ～異常値がでた その時どう対応する？～」に続き、マインドマップを用いた事例検討会では、独居で認知症がある方の薬の管理について意見交換をしました。



### 3) 名張市立病院総合診療科勉強会

日時：2019年1月25日（金）16:30-19:30 会場：名張市立病院

講師：石丸 裕康先生（天理よろづ相談所病院、総合内科）

天理よろづ相談所病院から石丸先生を招致して、教育回診、Case Conference、講演会を行いました。教育回診は入院患者のphysical回診、困難症例の相談を行い、Case Conferenceではinteractiveな検討会で盛り上がりました。続く講演会では膠原病、不明熱を中心としたLectureが行われ学びの多い時間となりました。

### 4) 三重大学総合診療プログラム ポートフォリオ発表会

日時：2019年2月17日（火）9:00～12:00 会場：三重大学医学部

総勢25名の専攻医、指導医、多職種が集い、専攻医のポートフォリオ作成支援のミーティングが行われました。

セミオープンのかとして外部参加者も定期的に参加しています。専攻医は自施設の指導医との振り返りの過程で言語化したもやもやを、さらに多様な意見を得て整理する場となっています。年3回の定期開催となっています。



#### 5) 第一回 LMC 地域交流会 ～生命輝かそう、志摩の市民～

日時：2019年2月23日(土) 13:00～17:30 会場：志摩市磯部生涯学習センター

司会：志摩市民病院 江角 悠太

様々な業種の間が集まり、医療介護、教育、産業で地域再生をはかるための講演とパネルディスカッションを行い、盛り上がりました。

#### 6) 三重大学総合診療プログラム レジデントデイ

日時：2019年2月26日(火) 15:00～18:00 会場：亀山市立医療センター

講師：志田 幸太先生、山本 政和先生

『乳幼児健診』のセッションとポートフォリオの作成支援を行いました。乳幼児健診ではチェックリストや小児科紹介のタイミングだけではなく、検診は異常を見つける場ではなく、日ごろの母の努力を認めてあげる場であり、声掛けや母子手帳への記入の際には言葉遣いなどに気を付けるべきであることをレクチャーとロールプレイで学習しました。診察に協力する予定のお子様の急な体調不良という不測の事態もありましたが、小児領域で大切な考え方や経験は共有できました。続いて、ポートフォリオの添削も行い、ポートフォリオ作成における、専攻医各人の成長を確認することができました。



#### 7) 感染症講義シリーズ (谷崎 隆太郎先生) 18:30-19:30 三重大学医学部総合診療科医局

2018年12月18日(火) 第9回 「インフルエンザ診療の裏側～なんのために臨床医が存在するのか～」

2019年1月29日(火) 第10回 「知っておきたいワクチンのハナシ～予防に勝る治療なし！を実感する～」

2019年2月26日(火) 第11回 「渡航医学の基本(Pre-travel)～知ると絶対得する、安全に渡航するためのTips～」

## 【今後の予定】

### 1) USMLE のススメ 瀬寄先生講演会×三重大学

日時：2019年3月2日(土) 14:00-16:50

講演：USMLE のススメ 瀬寄先生講演会×三重大学

第一部 USMIL 概要と体験談(14:00~15:20)

第二部 英語診察の実演(15:30~16:50)

個別相談会(事前予約制あり)前半 12:00~13:50 後半 17:00~18:00

講師：瀬寄 智之先生

### 2) Mie Master Course of Infectious Diseases (MiMID)

日時：2019年3月16日(土) 12:50-17:30

担当：谷崎 隆太郎先生

会場：三重大学講堂三翠ホール(小ホール)

### 3) 感染症講義シリーズ(谷崎 隆太郎先生) 18:30-19:30 三重大学医学部総合診療科医局

日時：2019年3月19日(火) 第12回「発熱・皮疹の鑑別～感染症とは限らない～」

### 4) 三重大学総合診療プログラム レジデントデイ

日時：2019年4月23日(火) 15:00~18:00 会場：津ファミリークリニック

#### <支部運営についての情報>

- 各県の代表窓口は下記の方々です

三重県；宮崎景、富山県；山城清二、石川県；吉岡哲也、岐阜県；森田浩之、愛知県；伴信太郎、  
福井県；林寛之、静岡県；北西史直

- プログラム責任者の会中部ブロック代表；大杉泰弘(藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラム)
- 中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください。  
木村 悦子(中部ブロック支部事務局) e-kimura@med.nagoya-u.ac.jp